

# 陳舜臣さんを語る会通信

NO.123 Jun. 2024

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel.078-911-1671

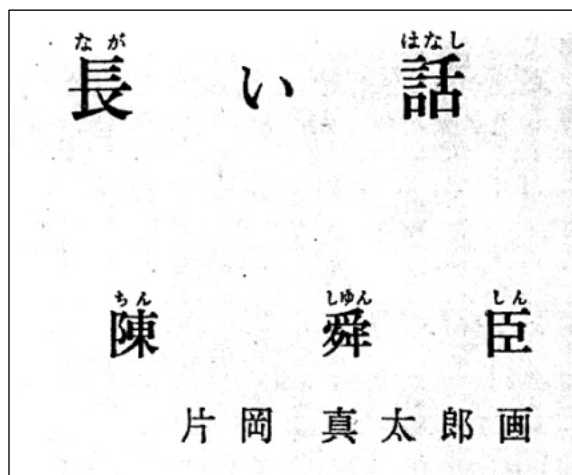
編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2024年6月20日

<http://www.eonet.ne.jp/~yuzo/>

## 短編集未収録27作を順次紹介いたします/第7回3作、その1「長い話」

短編集未収録27作を順次、詳しく紹介しています。本号はその第6回、最終回です。前号に続き、初出年の古い順で3作取り上げました。なお、4ページに、27作一覧を付けています。 (編集委員 橘雄三)



「長い話」は『オール讀物』の一九七三年11月号に掲載されました。挿し絵が三つ入って十八ページの短編です。

舞台・作中時間、登場人物及びあらすじ

〔舞台・作中時間〕

舞台は京都とサンフランシスコです。

月刊誌の一九七三年11月号掲載で、作

中時間もその頃か。回想が多い。

〔登場人物〕

●私 脇村の懺悔聴聞僧のような存在。

●脇村桂造 商社マン。

●山内滋 60歳近い。自称『美術鑑定家』。

戦前、上海で外人相手に商売をしていた

ことがあり、英語が達者。人ざらいなど

ころがあり、よく往き来していたのは、

京都長法寺の住職高浜覚忍だけ。大阪の

天満に住んでいたが、妻を亡くしたあと、

京都に引越した。覚忍和尚の長法寺に  
近くなるという理由だけで転居したよう。  
●山内寛子 山内滋の娘。脇村の婚約者。  
●高浜覚忍 京都長法寺の住職。  
●トマス・ウォース 国宝『絹本着色玄  
奘三蔵説法図』の現所蔵者。

〔あらすじ〕

高浜覚忍が住職を務める長法寺には、  
『絹本着色玄奘三蔵説法図』という国宝  
に指定された秘宝があった。

戦後、長法寺の住職覚忍は事業に手を  
出して失敗、莫大な借財をつくった。窮  
状打開の方法として思いついたのが秘宝  
の処分であった。

山内はそれをひそかに売却し、覚忍は  
それによつて立ち直った。いや、立ち直っ  
たところではない。寺の所有地であった  
広い土地が、ほとんど価値のない山林だっ  
たのが、宅地としてみるみる値上がりし  
たこともあって、たちまち巨億の資産家  
になった。

そんな状況下、長法寺の秘宝公開を強  
く要求する評論家が現われた。寺側が非  
公開を押し通そうとするので、秘宝が長  
法寺に存在しないのではないかという声  
まで上がってきた。

一方、特にこれといった仕事のない山  
内親娘が、りっぱすぎる家に住み、余裕  
のある生活をしてこれたのは、……

覚忍は、秘宝回収に踏み切る。

そんななか、事件が立て続けに起きる。

まず、秘宝の現所蔵者、サンフランシ  
スコ在住のトマス・ウォースとの交渉に  
出向いた山内滋が、何者かに襲われ重傷  
を負う。山内はサンフランシスコの病院  
で小康を得て帰国、京都の病院に移る。  
山内の入院中に覚忍和尚が殺害される。  
それから一週間して、山内滋が病院で  
死んだ。医者は、「断食死に症状が似て  
いましたな」と言った。



## 短編集未収録作品介绍/第7回3作、その2「背負って走れ」

## 背負って走れ 陳 舜 臣

「背負って走れ」は『カッパまがじん』の一九七六年九月初秋号掲載です。当該図書は、国会図書館にはなかったのですが、同作品が収録されている講談社『推理小説代表作選集1977』を古本屋で見つけました。ここではこちらを使用します。『推理小説』には挿し絵がないのが残念です。一九ページの短編です。

## 時代背景・舞台、登場人物及びあらすじ

## 『時代背景・舞台』

時代は中国、唐の時代で、舞台は都長安。少し詳しく見ていきましょう。

六四九 太宗李世民没し、太子李治即位(高宗)

六五五 王皇后を廃し武則天を冊立

六六〇 高宗病み、武則天の執政始まる

六八三 高宗没し、李顯即位(中宗 武則天の実子)

六八四 武則天、中宗を廃し弟の李旦(睿宗 武則天の実子)を立てる

六九〇 武則天、睿宗を廃して皇位に即き、国号を周と改める

七〇五 宰相張柬之のクーデター。中宗復位し、国号を唐に戻す。これに伴い、**韋皇后が朝政を掌握。武則天没す**

七一〇 韋皇后、中宗を殺し李重茂(少帝)を立てる。李隆基、韋后とその一党を殺し、少帝を退位させ中宗の弟睿宗を立てる。

七一二 睿宗、位を太子李隆基(玄宗)に譲る

## 『登場人物』

●文遠之 いまをときめく尚方丞(帝室工芸院主任)の苑東監と同門で、技術は苑よりすぐれていたが、宮仕えをきらって、在野の芸術家にとどまっている。

●安生 八世紀初頭に活躍した塑工(塑像造り、塑像家)。山西の人。文遠之の弟子。

●郭玄 塑工。文遠之の弟子で安生のライバル。

●苑東監 尚方丞(帝室工芸院主任)。文遠之と同門。文に弥勒像制作の命が下ったのは苑の推薦。

## 『あらすじ』

安生が長安で修行していたのは、ちょうど武則天の時代であった。武則天は自分を弥勒菩薩の生まれ変わりと信じていた。そこで、あらゆるところに、弥勒像がつくられるようになった。在野の人なのに、文遠之にも弥勒菩薩制作が命じられ、彼は、安生、郭玄ほか、主だった弟子を連れて宮城に入った。

安生はそのころ悩んでいた。菩薩がつかれないのである。生気を帯び、やさしさをもったものがつくれない。「人の心をうつものがない」と師匠も評した。

(わしの心をうつ女性に会えぬものか。…)  
安生は祈った。

ところで、安生たちが宮城内で仕事をしているうちに、政局が急変した。(上の時代背景赤字部分)

このクーデターは安生たちにまで波及した。安生は、従九品の下という最低の位階ではあったが、一介の工匠の身で少府監の官僚となった。それから五年、もう、菩薩像制作ではなかったが、安生の宮城内での仕事は続いていた。

そんな時、二度目の政変がおこります。(上の時代背景青字部分)

李隆基(七十二年、玄宗として即位)に従った青年将校たちは羽林營にとびこむや、韋氏の指揮官たちを斬ってすてた。

「韋后は先帝を毒殺し、国家の基礎を危うくした。よって今夕は、韋氏一党をことごとく誅殺する」

「宮城内の諸官僚は、すべて韋氏一党の息のかかった者じゃぞ。みつけしだい、容赦なく斬れ！」  
安生はけんめいに逃げた。

この騒動のなかで安生は、身を隠そうと、勝手知った少府監の倉庫に逃げ込むが、そこには先客が…。女性であった。

女の背から臀部にかけて、みごとな刺青がほどこされていた。そして、安生と宮女との間に、途方もないことが起こる。…。

安生はその女を背負って逃げる。

安生は故郷の山西に帰った。…。  
故郷の山西で、安生は美人の妻と、仲よく暮したといわれている。



『推理小説代表作選集1977』表紙

## 短編集未収録作品紹介/第7回3作、その3「あかつきの霞」

額に傷がある中国生まれの美女の謎

## あかつきの霞

陳舜臣  
え・辰巳一平

里村ユミ子は美人だったが、悲しいことに額に疵があった。彼女は戦前、中国の蘇州に長く住んでいたというが、その生い立ちは謎めいていた。その彼女から、私は額の疵あとに秘められた、女の暗い半生をきいた。

「あかつきの霞」は『週刊小説』の一九七六年十二月六日号に掲載された、大きな挿し絵がたくさん入った十四ページの短編です。

## 舞台・作中時間、登場人物及びあらすじ

## 【舞台・作中時間】

冒頭、「私」と里村ユミ子は、十年ぶりに神戸の元町で再会する。掲載誌の発行が一九七六年十二月で、作中時間も、その頃から始まり、戦時中の中国蘇州での出来事を回想するかたちでストーリーは展開する。

## 【登場人物】

●私 作家。かなり名が売れている。陳舜臣さんの分身。十年前、取材目的で、蘇州に詳しい里村ユミ子に二回、話を聞いたことがあった。

●里村ユミ子 60前後。額に疵あとがある美人。その生育歴については謎が多い。

「母親」は、大正の初期に中国へ渡ってきた九州出身の芸者で、上海でユミ子を産んだと教えられてきた。しかし、「どうやら、中国人の産んだ子を、日本人として育てたのであるらしい」

●中島 大物の政商。旧軍人。

## 【あらすじ】

私は、里村ユミ子との十年前の取材時のやり取りを思い起す。

疵は、上海の百貨店で、ガラスのドアにぶつかってできたと聞き、私は、「まるで夜来<sup>やらい</sup>のようにやありませんか」と言い、あと、夜来についての長い記述が続く。

夜来とは、魏の文帝(三国志の英雄の一人曹操の息子曹丕)が愛した絶世の美女の名である。本名は薛<sup>せう</sup>霊<sup>れい</sup>芸<sup>いん</sup>。

『妝楼記』によると、夜来は、水晶の屏風に衝突、血が流れ、赤い朝日に霞がかかったように見え、夜来はいっそう妖艶なすがたに映ったという。タイトルはこのことから来ている。

陳舜臣さんは、この故事と、里村ユミ子が、ガラスのドアにぶつかって額を負傷したことを重ね合わせたのだ。

日本が関東大震災で大騒ぎをしていたころ、ユミ子の「母親」は死んだ。料亭のおかあさんは、蘇州に新しく店を出すことになり、ユミ子もそこへ移った。...

ユミ子は十六になると、旦那をとらされた。中島という人物で、たいへんな大物の政商であつたらしい。

中島の妾にされて十年近くたち、すでに日中間に戦争が始まっていた。

ある日、中国人の女友達から、

「中島は中国側の秘密工作を破壊する仕事をしています。中国の愛国者が、彼のために何人も殺されたわ」ということをきいた。

ユミ子のなかの、中国人の血とおぼしいものが、そのとき狂おしいばかりに騒いだ。その夜、彼女は中島の胸に抱かれながら、

(この男を殺せるかしら?)と考えた。

その夜、ユミ子は刺身包丁を持って中島の仕事部屋へ侵入した。

ユミ子は包丁を取り直し、抜き足差し足で中島の背後へむかった。

(とび込んで、背中を刺し、思いきってそれをえぐる)彼女は自分にそう言いかけた。

ユミ子は身を躍らせた。

カーン、ガラガラと、金属的な音がしたのと同時に、手にした包丁が床に落ちてころがった。ユミ子と中島の間には透明な防弾ガラスが立てられていたのだ。...

中島殺害は不首尾に終りそうに見えたが、すぐそのあと、思いがけない出来事が...

ビヤーン、と銃声が響き中島は倒れ赤い血が...。ユミ子以外にも中島の命を狙う者がいたのだ。



十六になり、中島を旦那にとらされたユミ子

## 短編集未収録27作 一覧

| 番号 | 題           | 初出誌                    | 初出年  | 初出月など           | 掲載ページ              | 備考     |
|----|-------------|------------------------|------|-----------------|--------------------|--------|
| 1  | 潜伏者         | 新週刊                    | 1962 | 3月22日号          | 64-68              | データベース |
| 2  | 午前11時30分    | 推理ストーリー                | 1962 | 7月号             | 64-76              | 東京遠隔複写 |
| 3  | 千客万来        | 週刊大衆                   | 1962 | 8月4日号           | 78-85              | 東京遠隔複写 |
| 4  | 火の周辺        | 宝石                     | 1963 | 2月号             | 32-49              | 東京遠隔複写 |
| 5  | アルプスの密室     | 漫画読本                   | 1963 | 3月号             | 232-237            | 東京遠隔複写 |
|    | アルプスの密室■解決編 | 漫画読本                   | 1963 | 4月号             | 237                | 古本     |
| 6  | 宿縁          | 宝石                     | 1963 | 5月号             | 34-51              | 古本     |
| 7  | 怪物も死ぬ       | 世代'63                  | 1963 | (9月)            | 342-352            | 関西館    |
| 8  | 社長はおびえた     | 宝石                     | 1964 | 3月号             | 48-67              | 古本     |
| 9  | 新・黄色い部屋     | 漫画読本                   | 1965 | 1月号             | 226-233            | 古本     |
|    | 新・黄色い部屋■解決編 | 漫画読本                   | 1965 | 新春特別号           | 243                | 東京本館   |
| 10 | 三つ巴の殺意      | 推理ストーリー                | 1965 | 2月号             | 155-187            | 東京遠隔複写 |
| 11 | 一人の城        | 小説現代                   | 1965 | 3月号             | 95-107             | 東京遠隔複写 |
| 12 | おれは誰だ       | 漫画読本                   | 1965 | 9月号             | 226-233            | 東京遠隔複写 |
|    | おれは誰だ■解決編   | 漫画読本                   | 1965 | 10月号            | 229                | 東京遠隔複写 |
| 13 | 狂った手鉤       | 推理ストーリー                | 1967 | 2月号             | 74-94              | 古本     |
| 14 | 三つのアリバイ     | 漫画読本                   | 1967 | 3月号             | 228-235            | 東京遠隔複写 |
|    | 三つのアリバイ■解決編 | 漫画読本                   | 1967 | 4月号             | 235                | 東京遠隔複写 |
| 15 | 柔道指南の報酬     | 旅                      | 1967 | 5月号             | 249-257            | 東京本館   |
| 16 | 疾走する青春      | 週刊読売                   | 1968 | 5月10日号          | 102-111            | 関西館    |
| 17 | 第三の告白       | 小説エース                  | 1968 | 11月号            | 92-111             | 東京遠隔複写 |
| 18 | 美貌の波紋       | 小説現代                   | 1969 | 4月号             | 148-160            | 東京遠隔複写 |
| 19 | 浮いた手紙       | 小説サンデー毎日               | 1970 | 6月号             | 244-264            | 東京遠隔複写 |
| 20 | 居候坊主        | 週刊言論                   | 1971 | 1月22日号、<br>29日号 | 118-123<br>120-124 | 東京遠隔複写 |
| 21 | 死んでいる       | 別冊小説宝石                 | 1971 | 新春特大号           | 70-79              | 東京遠隔複写 |
| 22 | ありえない関係     | オール讀物                  | 1971 | 4月号             | 328-345            | 関西館    |
| 23 | キレモノ・ニセモノ   | 別冊小説宝石                 | 1971 | 初夏号・6月          | 71-86              | 東京遠隔複写 |
| 24 | 破局は穴の中      | 小説現代                   | 1972 | 10月号            | 128-147            | 東京遠隔複写 |
| 25 | 長い話         | オール讀物                  | 1973 | 11月号            | 368-385            | 関西館    |
| 26 | 背負って走れ      | カッパマガジン(推理小説代表作選集1977) | 1976 | 9月初秋号           | 169-187            | 古本     |
| 27 | あかつきの霞      | 週刊小説                   | 1976 | 12月6日号          | 8-21               | 関西館    |

## [備考欄]

・データベース/国会図書館のデータベースにアクセス、自宅パソコンにてプリントアウト

・東京本館/訪問し印刷

・関西館/訪問し印刷

・東京遠隔複写/東京本館へ遠隔複写依頼

・古本/古本屋にて掲載誌を購入

## [初出誌欄]

・通し番号26/初出誌は「カッパマガジン」ですが、「推理小説代表作選集1977」を購入。掲載ページもこれに拠ります。